

JIS

紙及び板紙－拡散反射率による色の測定方法－ 室内昼光条件（C/2°）

JIS P 8150 : 2023

(ISO 5631-1 : 2022)

(JAPAN TAPPI/JSA)

令和 5 年 3 月 20 日 改正

日本産業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

日本産業標準調査会標準第一部会 構成表

| | 氏名 | 所属 |
|-------|---------|--------------------------------------|
| (部会長) | 松 橋 隆 治 | 東京大学 |
| (委員) | 安 部 泉 | 公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサル タント・相談員協会 |
| | 大 瀧 雅 寛 | お茶の水女子大学 |
| | 奥 野 麻衣子 | 三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社 |
| | 木 村 一 弘 | 国立研究開発法人物質・材料研究機構 |
| | 是 永 敦 | 国立研究開発法人産業技術総合研究所 |
| | 椎 名 武 夫 | 千葉大学 |
| | 寺 家 克 昌 | 一般社団法人日本建材・住宅設備産業協会 |
| | 清 家 剛 | 東京大学 |
| | 高 辻 利 之 | 国立研究開発法人産業技術総合研究所 |
| | 千 葉 光 一 | 関西学院大学 |
| | 寺 澤 富 雄 | 一般社団法人日本鉄鋼連盟 |
| | 渡 田 滋 彦 | 一般財団法人日本船舶技術研究協会 |
| | 中 川 梓 | 一般財団法人日本規格協会 |
| | 久 田 真 | 東北大学 |
| | 廣 瀬 道 雄 | 一般社団法人日本鉄道車輛工業会 |
| | 藤 本 浩 志 | 早稲田大学 |
| | 星 川 安 之 | 公益財団法人共用品推進機構 |
| | 細 谷 恵 | 主婦連合会 |
| | 棟 近 雅 彦 | 早稲田大学 |
| | 村 垣 善 浩 | 神戸大学 |
| | 山 内 正 剛 | 国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 |
| | 山 田 陽 滋 | 豊田工業高等専門学校 |
| | 和 辻 健 二 | 一般社団法人日本自動車工業会 |

主 務 大 臣：経済産業大臣 制定：平成 16.3.20 改正：令和 5.3.20

官 報 掲 載 日：令和 5.3.20

原 案 作 成 者：紙パルプ技術協会

(〒104-8139 東京都中央区銀座 3-9-11 紙パルプ会館 TEL 03-3248-4841)

一般財団法人日本規格協会

(〒108-0073 東京都港区三田 3-13-12 三田 MT ビル TEL 050-1742-6017)

審 議 部 会：日本産業標準調査会 標準第一部会 (部会長 松橋 隆治)

この規格についての意見又は質問は、上記原案作成者又は経済産業省産業技術環境局 国際標準課 (〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1-3-1) にご連絡ください。

なお、日本産業規格は、産業標準化法の規定によって、少なくとも5年を経過する日までに日本産業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

目 次

| | ページ |
|------------------------|-----|
| 序文 | 1 |
| 1 適用範囲 | 1 |
| 2 引用規格 | 1 |
| 3 用語及び定義 | 2 |
| 4 原理 | 3 |
| 5 装置 | 3 |
| 5.1 反射率計 | 3 |
| 5.2 参照標準面 | 3 |
| 5.3 常用標準面 | 4 |
| 5.4 黒色筒 (black cavity) | 4 |
| 6 サンプリング及び調湿 | 4 |
| 7 試験片の調製 | 4 |
| 8 操作 | 5 |
| 9 計算 | 5 |
| 9.1 CIE 三刺激値 | 5 |
| 9.2 CIELAB 座標 | 5 |
| 9.3 測定結果のばらつき | 6 |
| 10 測定結果の表し方 | 6 |
| 11 精度 | 6 |
| 12 報告 | 6 |
| 附属書 A (規定) 三刺激値の計算 | 8 |
| 参考文献 | 13 |
| 解 説 | 14 |

まえがき

この規格は、産業標準化法第 16 条において準用する同法第 12 条第 1 項の規定に基づき、紙パルプ技術協会（JAPAN TAPPI）及び一般財団法人日本規格協会（JSA）から、産業標準原案を添えて日本産業規格を改正すべきとの申出があり、日本産業標準調査会の審議を経て、経済産業大臣が改正した日本産業規格である。これによって、**JIS P 8150:2004** は改正され、この規格に置き換えられた。

この規格は、著作権法で保護対象となっている著作物である。

この規格の一部が、特許権、出願公開後の特許出願又は実用新案権に抵触する可能性があることに注意を喚起する。経済産業大臣及び日本産業標準調査会は、このような特許権、出願公開後の特許出願及び実用新案権に関わる確認について、責任はもたない。

紙及び板紙—拡散反射率による色の測定方法— 室内昼光条件 (C/2°)

Paper and board—Determination of colour by diffuse reflectance— Indoor daylight conditions (C/2°)

序文

この規格は、2022年に第3版として発行されたISO 5631-1を基に、技術的内容を変更することなく作成した日本産業規格である。

なお、この規格で点線の下線を施してある参考事項は、対応国際規格にはない事項である。

1 適用範囲

この規格は、拡散光で照明し、正反射成分を除いて、紙及び板紙の色を測定する方法について規定する。この規格は、蛍光染料（蛍光増白剤を除く。）又は蛍光顔料によって着色した紙及び板紙には適用しない。ただし、蛍光増白剤を含む紙及び板紙の色については、試験片への照明光に含まれる紫外線量を、JIS P 8148に規定した認定試験所（authorized laboratory）が発行するIR3標準蛍光白色面を用い、CIE イルミネントC相当の紫外線含有量に調整した場合には、適用可能である。

注記 この規格の対応国際規格及びその対応の程度を表す記号を、次に示す。

ISO 5631-1:2022, Paper and board—Determination of colour by diffuse reflectance—Part 1: Indoor daylight conditions (C/2°) (IDT)

なお、対応の程度を表す記号“IDT”は、ISO/IEC Guide 21-1に基づき、“一致している”ことを示す。

2 引用規格

次に掲げる引用規格は、この規格に引用されることによって、その一部又は全部がこの規格の要求事項を構成している。これらの引用規格のうち、西暦年を付記してあるものは、記載の年の版を適用し、その後の改正版（追補を含む。）は適用しない。西暦年の付記がない引用規格は、その最新版（追補を含む。）を適用する。

JIS P 8110 紙及び板紙—平均品質を測定するためのサンプリング方法

注記 対応国際規格における引用規格：ISO 186, Paper and board—Sampling to determine average quality

JIS P 8148 紙、板紙及びパルプ—拡散青色光反射率の測定方法—室内昼光条件（ISO 白色度）

注記 対応国際規格における引用規格：ISO 2470-1, Paper, board and pulps—Measurement of diffuse blue reflectance factor—Part 1: Indoor daylight conditions (ISO brightness)